

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第3部門第2区分
 【発行日】平成20年11月13日(2008.11.13)

【公表番号】特表2008-528702(P2008-528702A)
 【公表日】平成20年7月31日(2008.7.31)
 【年通号数】公開・登録公報2008-030
 【出願番号】特願2007-554269(P2007-554269)
 【国際特許分類】

A 6 1 K 31/445 (2006.01)
 C 0 7 D 211/94 (2006.01)
 A 6 1 P 37/00 (2006.01)
 A 6 1 P 3/10 (2006.01)
 A 6 1 P 15/00 (2006.01)
 A 6 1 P 17/00 (2006.01)
 A 6 1 P 7/06 (2006.01)
 A 6 1 P 7/04 (2006.01)
 A 6 1 P 21/04 (2006.01)
 A 6 1 P 25/00 (2006.01)
 A 6 1 P 27/02 (2006.01)
 A 6 1 P 19/02 (2006.01)
 A 6 1 P 9/10 (2006.01)
 A 6 1 P 1/04 (2006.01)
 A 6 1 P 31/06 (2006.01)
 A 6 1 P 37/02 (2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K 31/445
 C 0 7 D 211/94
 A 6 1 P 37/00
 A 6 1 P 3/10
 A 6 1 P 15/00
 A 6 1 P 17/00
 A 6 1 P 7/06
 A 6 1 P 7/04
 A 6 1 P 21/04
 A 6 1 P 25/00
 A 6 1 P 27/02
 A 6 1 P 19/02
 A 6 1 P 9/10 1 0 1
 A 6 1 P 1/04
 A 6 1 P 31/06
 A 6 1 P 37/02

【手続補正書】
 【提出日】平成20年9月17日(2008.9.17)
 【手続補正1】
 【補正対象書類名】特許請求の範囲
 【補正対象項目名】全文
 【補正方法】変更
 【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

免疫疾患に関連する 1 種以上のタンパク質の細胞内レベルを変えるための、有効量のニトロキシド抗酸化剤を含む医薬組成物。

【請求項 2】

免疫疾患関連タンパク質のレベルを増大させるための、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 3】

前記免疫疾患関連タンパク質がグルココルチコイド誘発性ロイシンジッパーである、請求項 2 に記載の医薬組成物。

【請求項 4】

免疫疾患関連タンパク質のレベルを低下させるための、請求項 1 に記載の医薬組成物。

【請求項 5】

前記免疫疾患関連タンパク質がコラーゲンタイプ 1 A 1 及び補体成分 6 からなる群から選択される、請求項 4 に記載の医薬組成物。

【請求項 6】

前記ニトロキシド抗酸化剤が、4 - ヒドロキシ - 2 , 2 , 6 , 6 - テトラメチルピペリジン - 1 - オキシルである、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 7】

前記免疫疾患が、グレーブズ病、橋本甲状腺炎、自己免疫多腺性症候群、インスリン依存性真性糖尿病、免疫介在性不妊症、自己免疫性アディソン病、尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡、疱疹状皮膚炎、白斑、自己免疫性溶血性貧血、自己免疫性血小板減少性紫斑病、悪性貧血、重症筋無力症、多発性硬化症、ギヤン - バレー症候群、スティッフマン症候群、急性リウマチ熱、交感性眼炎、グッドパスチャー症候群、全身性エリトマトーデス、関節リウマチ、全身性壊死性血管炎、ヴェーゲナー肉芽腫症、抗リン脂質症候群、シェーグレン症候群、強皮症、加速された移植後動脈硬化、移植片対宿主疾患、クローン病、及び結核からなる群から選択される、請求項 1 ~ 6 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 8】

免疫疾患に関連する遺伝子の発現を変えることによって免疫疾患の進行を抑制するための、免疫疾患に関連する遺伝子の発現を変えるために有効な量のニトロキシド抗酸化剤を含む医薬組成物。

【請求項 9】

前記免疫疾患に関連するタンパク質の発現が増大する、請求項 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 10】

免疫疾患に関連する前記タンパク質が、グルココルチコイド誘導性ロイシンジッパーである、請求項 8 又は 9 に記載の医薬組成物。

【請求項 11】

前記免疫疾患に関連するタンパク質の発現が低下する、請求項 8 に記載の医薬組成物。

【請求項 12】

免疫疾患に関連する前記タンパク質が、コラーゲンタイプ 1 A 1 及び補体成分 6 からなる群から選択される、請求項 8 又は 11 に記載の医薬組成物。

【請求項 13】

前記ニトロキシド抗酸化剤が 4 - ヒドロキシ - 2 , 2 , 6 , 6 - テトラメチルピペリジン - 1 - オキシルである、請求項 8 ~ 12 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 14】

前記疾患が、グレーブズ病、橋本甲状腺炎、自己免疫多腺性症候群、インスリン依存性真性糖尿病、免疫介在性不妊症、自己免疫性アディソン病、尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡、疱疹状皮膚炎、白斑、自己免疫性溶血性貧血、自己免疫性血小板減少性紫斑病、悪性貧血、重症筋無力症、多発性硬化症、ギヤン - バレー症候群、スティッフマン症候群、急性リウマチ熱、交感性眼炎、グッドパスチャー症候群、全身性エリトマトーデス、関節リウマチ、全身性壊死性血管炎、ヴェーゲナー肉芽腫症、抗リン脂質症候群、シェーグレン症候

群、強皮症、加速された移植後動脈硬化、移植片対宿主疾患、クローン病、及び結核からなる群から選択される、請求項 8 ~ 13 のいずれか一項に記載の医薬組成物。

【請求項 15】

活性剤としてニトロキシド抗酸化剤を含む、マクロファージ活性を抑制することによって免疫疾患を治療するための医薬組成物。

【請求項 16】

前記ニトロキシド抗酸化剤の量が、マクロファージ活性の抑制に関連する少なくとも一つのタンパク質の細胞内レベルを増大させるために有効な量である、請求項 15 に記載の医薬組成物。

【請求項 17】

マクロファージ活性の抑制に関連する前記タンパク質が、グルココルチコイド誘発性ロイシンジッパーである、請求項 16 に記載の医薬組成物。

【請求項 18】

膜攻撃性複合体の活性を抑制するために有効な量のニトロキシド抗酸化剤含む、膜攻撃性複合体の活性を抑制するための医薬組成物。

【請求項 19】

前記膜攻撃性複合体の活性の抑制に関連する少なくとも一つのタンパク質の細胞内レベルを低下させることによって、膜攻撃性複合体の活性を抑制する、請求項 18 に記載の医薬組成物。

【請求項 20】

マクロファージ活性の抑制に関連するタンパク質が補体成分 6 である、請求項 16 に記載の医薬組成物。